

僕は振り向けなかった

今朝の出来事は、僕の人生で絶対忘れてならない出来事だと思う。

あれは、僕の勇気のない生き恥の典型だ。

どうして、あんな事まで、女の人に、やらせるのか。

僕が男らしくないからだ。

僕は自分の取った態度に、後悔と反省が一杯で、自己嫌悪に陥る思いだ。

これが、いとこのけいちゃんや、小学校の同級生の女の子なら、もっと、自然に僕は行動できたと思う。

それが、あの子の前では、僕は、完全に、卑怯な、貧弱な、ろくでなしになってしまう。

僕の心に、言葉ひとつ生まれて、その言葉伝えたく、僕の心は、泣き叫ぶ。

その心の響き、この思い、風に乗せて伝えたい。

しかし、あの人には、わからない。

それは単なる、風に揺らぐ、木の葉のざわめき。あの人には、誰からの風の声か、わからない。